

研究集会用資料作成の手引

Instructions to Authors

岩手太郎^{*}, 青森次郎^{**}, 山形三郎^{***}, 福島四郎[†], 秋田五郎[‡], 宮城六郎[§]

Tarou Iwate^{*}, Jirou Aomori^{**}, Saburo Yamagata^{***},
Shirou Fukushima[†], Gorou Akita[‡], Rokuro Miyagi[‡]

^{*}岩手工科大学, ^{**}青森医科大学, ^{***}山形株式会社,
[†]福島情報研究所, [‡]秋田株式会社, [§]仙台株式会社

^{*}Iwate University of Technology, ^{**}Aomori Medical College, ^{***}Yamagata Corp.
[†]Fukushima Research Institute of Information Science, [‡]Akita Ltd., [§]Sendai Ltd.

キーワード: 多点計測 (multi-point measurment), フーリエ変換 (Fourier transform), 回帰分析 (regression analysis), 最適推定 (optimal estimation), 雑音除去 (noise elimination)

連絡先: 〒000 岡盛市青葉町 12-13 岩手工科大学 情報工学部 機械工学科 岩手研究室
岩手太郎, Tel.: (0000)235-1000, Fax.: (0000)235-1001, E-mail: iwate@okamori.ac.jp

1. はじめに

計測自動制御学会東北支部研究集会におけるご発表をお申し込みいただき、まことにありがとうございます。以下の資料作成要領にしたがって、資料をご準備ください。また、当日のプログラムを同封させていただきますので、よろしくお願ひします。

なお、この資料作成の手引きは Windows 版「 $\LaTeX 2\epsilon$ 」で作成されており、例文(この手引自体)の \TeX ファイル「Example.tex」と専用のスタイルファイル「SICETHK.sty」が用意されております(漢字コードの変換により、Linux 等の版でも動作するはずです)。 $\LaTeX 2\epsilon$ の入手、インストールについてはネット検索、各種書籍などをご参照ください。各社ワープロソフトなどをご使用の場合は、下記、原稿の作成方

法をご参照いただき、体裁を調整してください。

また、東北支部の研究集会や主催講演会の案内をご希望の方、あるいは、研究集会の講演申し込みをご希望の方は、sice-tohoku@topic.ad.jp まで電子メールでご連絡下さい。

2. 本文

2.1 原稿

A4 で最大 10 ページとしてください。原稿はできれば 2 段組での作成をお願いいたしますが、困難な場合には 1 段組でも可とします。活字の大きさは 11 ポイント程度をお使い下さい。字間はなるべく詰めて、行間は読みやすい程度に適宜あけてください。

2.2 題目等

本見本を参考にして作成下さい。上下と左側に、それぞれ 2.5cm 程度の余白を必ずとってください。資料には

- 1) 発表年月日
- 2) 資料番号(プログラムに記載されている論文番号参照)
- 3) 邦文表題
- 4) 英文表題
- 5) 邦文著者名(登壇者に 印を付ける)
- 6) 英文著者名(登壇者に 印を付ける)
- 7) 邦文勤務先
- 8) 英文勤務先
- 9) 5 個程度の邦文キーワード(英文キーワード)
- 10) 連絡先:
 - (a) 郵便番号
 - (b) 住所
 - (c) 氏名
 - (d) 電話
 - (e) FAX
 - (f) 電子メールアドレス

を付けて下さい。

2.3 文体

口語体とし、当用漢字およびかなを用い、新かなづかいによるものとします。外国語はカタカナまたは原語のままとします。

2.4 用語

なるべく文部省または JIS で制定されたものによることとします。

2.5 単位

国際単位 (SI) を用い、数字はアラビア数字を使うものとします。

2.6 記号

量および単位記号(ローマ字またはギリシャ文字) はなるべく JIS で制定されたものを使用することとします。

3. 文献の引用

3.1 形式

参考文献のリストは本文の末尾にまとめて書き、次の形式によるものとします。

3.1.1 雑誌のとき

番号) 著者: 論文題目, 誌名, 巻-号, 始ページ/終ページ (年)

例:

72) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, 11-4, 60/63 (1992)

3.1.2 単行本のとき

番号) 著者: 書名, 始ページ/終ページ, 発行所名 (発行年)

例:

23) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版 (1991)

3.2 引用

引用箇所に番号を右肩に小さく¹⁾のように記入して下さい。

例:



Fig. 1 EPS ファイルの例 . Example of EPS file using includegraphics.

Table 1 有名な定数 . Popular constants.

名称	文字	数値	単位
重力加速度	g	9.8	[m/s ²]
円周率	π	3.141593	[]

神経系の遠心性コピー情報¹⁾は,ここでは認められないと言われている^{2,3)}.

3.3 脚注

本文の下に横線を引き,その下に記入して下さい*. 記号はページごとに*印を使うものとします.

4. 図表の書き方

4.1 書き方

基本的には計測自動制御学会論文集の書き方に準拠します.

4.2 表題

図の表題は図の下に,表の表題は表の上に付けてください. 表題は和文と英文の両方で書くのが望ましいですが,どちらか一方でも構いません. Fig. 1 は図の表題の例, Table 1 は表の表題の例です.

*たとえばこのように

5. 数式の書き方

変数名はイタリックで書くことを推奨します. 式番号は(1)のように式の右端に書いてください. 以下に例を示します.

例:

このように考えると,点 A は球面 π_O と直線 MA' との交点となる. MA' の方程式は ρ_A をパラメータとすると

$$\frac{x}{x'_A} = \rho_A \quad (1)$$

$$\frac{y}{y'_A} = \rho_A \quad (2)$$

$$-\frac{z - z_e}{z_e} = \rho_A \quad (3)$$

で表され,球面 π_O の方程式は

$$x^2 + y^2 + z^2 = r^2 \quad (4)$$

で与えられる.

6. おわりに

細かい書き方は計測自動制御学会論文集に準拠して下さい.

参考文献

- 1) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 123/126, 朝霧出版(1991)
- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, 11-4, 60/63 (1992)
- 3) 笠間 健, 朝比奈 敏之, 吉田 崇, 辻岡 三郎: 脳波を用いた 3 次元運動計測システム, 計測自動制御学会論文集, 19-12, 997/1003 (1983)